

事例紹介

# 物流事業者による、「SSCC」を利用した パレット単位の輸送梱包識別・共同輸配送の実現

## 概要

共同輸配送による物流効率化を目指すSustainable Shared Transport株式会社（以下、SST社）では、パレット単位の輸送梱包にSSCCを設定し識別をしている。SSCCという国際標準の識別コードを利用することで、SST社以外がコードを設定したとしても、輸送梱包を一意に識別することができる。2025年6月時点で、関東、関西、中部、北陸、東北、中国、九州での運用を開始しており、今後更に範囲を拡大していく予定だ。

## 配送作業の流れ

まず、発拠点で集荷を行う際、現場でA4サイズの送り状を発行し、荷物に直接貼り付ける。この送り状には、パレット単位の輸送梱包を識別するコードとしてSSCCが利用されている。中継輸送拠点でのドライバー交代のタイミングや荷物の積み下ろし、積み込み、そして着拠点での積み下ろし時にSSCCが読み取られる。共同輸配送で地域の複数の物流網を集約する中、パレット単位での納品は、作業時間やミスの削減につながる。

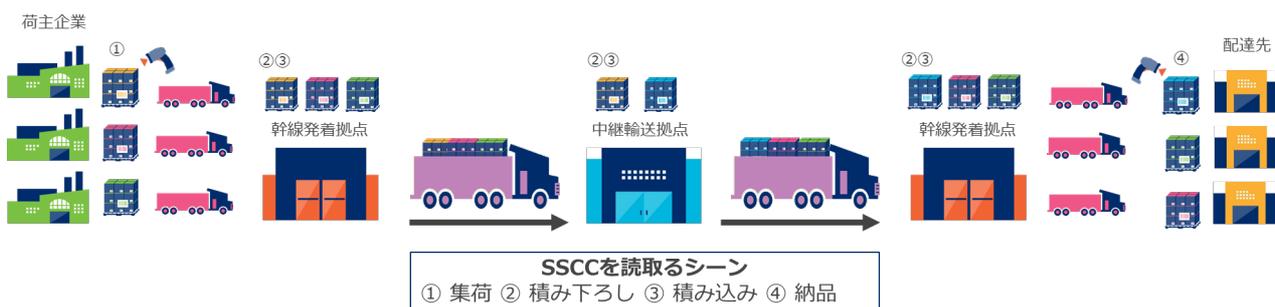
## Sustainable Shared Transport株式会社

ヤマトホールディングス株式会社が2024年に設立した新会社。パレットを活用した混載・中継輸配送で多様な荷主企業・物流事業者をつなぎ、安定した輸送力の確保と環境に配慮した持続可能なサプライチェーンの構築を目指す。需要と供給を最適化する共同輸配送のオープンプラットフォームの提供を開始している。

[https://sst-green.co.jp/service/service\\_information/](https://sst-green.co.jp/service/service_information/) および

[https://www.yamato-hd.co.jp/news/2024/newsrelease\\_20240521\\_2.html](https://www.yamato-hd.co.jp/news/2024/newsrelease_20240521_2.html)

より一部引用



\* SSCC (Serial Shipping Container Code: 出荷梱包シリアル番号):  
物流位（例：段ボールケースを積みつけたパレット単位等）にシリアル番号を付け、一意に識別することができるGS1識別コード。

## SST社で運用しているコード体系

送り状に付番するコードとして、SSCC 18桁と独自コード 20桁 ※を用意している。SSCCのコード体系は右記のとおりである。SSCCの拡張子とシリアル番号は、事業者が設定をする。なお、独自コードは今後業界特有で必要となった情報を入れられるようにするバッファとして用意している。

現状は扱う輸送梱包のSSCCは全てSST社が設定をしているが、将来的には荷主などが自身の輸送梱包にSSCCを設定することも想定している。荷主が設定することで、複数企業間での輸送梱包の識別に加えて、荷主の自社内での輸送梱包の所在管理などにも活用することが可能となる。

今回の共同輸配送は国内のみをターゲットとしているが、複数の荷主や物流事業者が交わる環境下で、スムーズにデータ連携をするためコードの標準化は重要である。後から標準の考え方を導入するよりも、会社が設立され、システムをはじめに作る段階から、国際標準のGS1識別コードであるSSCCを採用した。

※企業の内部使用データを表示する[GS1アプリケーション識別子](#) (99) を用いて独自コードを設定している。

## 今後の展望

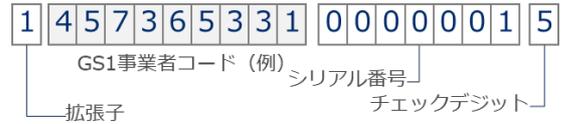
SST社は、対象地域やダイヤの拡充に加えて、トラック輸送だけでなく鉄道や船舶なども含めたマルチモーダルを推進し、2026年3月末を目途に80線便まで幹線輸送の路線を拡大することで、共同輸配送を加速させる予定だ。※

「標準」の力を生かした共同輸配送のオープンプラットフォームを提供し、荷主や物流事業者へプラットフォーム参画を推進することで、持続可能なサプライチェーン構築を目指すとしている。

※[https://www.yamato-hd.co.jp/news/2024/newsrelease\\_20250127\\_1.html](https://www.yamato-hd.co.jp/news/2024/newsrelease_20250127_1.html) より引用

## SSCC (Serial Shipping Container Code)

18桁



送り状のSSCCを端末で読み取る様子

## 物流で使える！GS1識別コード

SSCCをはじめとした、物流に活用できるGS1識別コードをご紹介します。世界中で重複しない、国際標準に従ったコードは、サプライチェーン全体のスムーズな連携に役立ちます。トレーサビリティの確保や資産管理などにもご活用いただけます。

詳細はこちらから

GS1 Japan

ソリューション第1部

[solution@gs1jp.org](mailto:solution@gs1jp.org)

<https://www.gs1jp.org>